

印旛地区教育研究集会

国語科「話す・聞く」分散会提案

研究主題

I C T機器を活用した主体的・対話的な学びあいによる
コミュニケーション能力の育成



佐倉市立井野中学校

1 研究主題

I C T機器を活用した主体的・対話的な学びあいによるコミュニケーション能力の育成

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

国語科の学習指導要領における「話すこと・聞くこと」の指導事項には、次の内容が挙げられている。

- 話題の設定, 情報の収集, 内容の検討
- 構成の検討, 考えの形成 (話すこと)
- 表現, 共有 (話すこと)
- 構造と内容の把握, 精査・解釈, 考えの形成, 共有 (聞くこと)
- 話合いの進め方の検討, 考えの形成, 共有 (話し合うこと)

日常生活を送る中で、他者と交流し人間関係を築く際に、最も身近で一般的なコミュニケーション手段は、「話すこと・聞くこと」である。したがって、生徒が他者との関わりを良好なものにし、深め、人生をより豊かにしていくためには、このコミュニケーション能力は必要不可欠であると言える。

学習指導要領では、「話題」は日常生活の身近なものを選ぶことから始まり、発達段階に応じて社会生活の中から選ぶことと示されている。よって、生徒自身が日頃から、身の回りや社会の出来事に対し、関心を持ち、自分の考えをもつ力が求められる。本単元では、他教科の学習内容からスピーチの話題を探すことで、教科等横断的な視点を取り入れる。また、その話題を相手の立場や考えを想定したうえで、工夫して表現したり、相手の話を聞いて自分の考えと比較したりすることは、話し合い活動を充実させ、互いの考えを深めていくためにも重要であるとする。

そして、本単元では学習を見直し振り返るために、「自分のスピーチを動画で撮影し、それを見て自己分析したり、友だちに見てもらいアドバイスを心得て改善したりする」活動を取り入れる。令和4年度の全国学力・学習状況調査でも、「話すこと・聞くこと」の力を問う設問において、「自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう」場面が設定されている。これは、スピーチをする際に自分の話し方について考えることに加え、スピーチについて聞き手がどのように受け止めているか考えることを求めている。さらに、I C T機器を活用し改良の過程を記録することができるとともに、協働的な学びの実現にもつながる。

また、友だちのスピーチを聞いたあと、それについて質問する活動（以下、「質疑応答の時間」とする。）を入れる。これにより、「自分の伝えたいことを相手に伝えられたか」という主観的な観点だけでなく、聞き手の質問から「聞き手がどのくらい自分のスピーチの内容を理解し、話題について考えを深化しようとしているか」という客観的な観点を取り入れられる。聞き手が「的確な質問ができるか」を確認することで、聞き手の授業に臨む姿勢が受け身にならず、話し手と聞き手の双方向の視点を取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習になると考える。

(2) 学校教育目標から

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 学校教育目標 | 自立・協働・貢献ができる生徒の育成 |
| | ○自立……正しい判断に基づいて自己決定し、責任ある言動がとれる |
| | ○協働……互いの個性を認めながら協力して活動し、達成感を共有できる |
| | ○貢献……自らの力を発揮して人や集団に役立ち、自己有用感をたかめる |
| めざす生徒像 | ○自他敬愛の心を持ち、共に努力向上しようとする生徒 |

本校では、個々の力を伸ばさせるとともに、他者との関わりを通して人としての在り方を身につけられるよう、創意ある授業を展開することに重点を置いている。ソーシャルメディアの急速な発達や、感染症拡大により、「他者との関わり」よりも「個」で過ごす時間が優先されつつある現代において、他と共に学び、生きていることを実感する活動を増やすことが求められている。国語科の学習を通して、人間関係作りの基盤となるコミュニケーション能力の育成を高めていくことが必要である。

(3) 生徒の実態から

本校の生徒は話を聞く姿勢が比較的整っており、落ち着いた態度で学校生活を送れる生徒が多い。また、課題解決学習では、少人数の班で活動させると、級友と意欲的に取り組み、解決しようとする姿勢が見られることもある。

しかし、実際に授業の中での様子を見ると、与えられた課題には意欲的に取り組む反面、「言われたことはしっかりする」「指示されたことだけすれば満足」という態度でいる生徒も存在していることから、課題を自ら探したり、発展的に見方や考え方を広げ、柔軟に発想していこうとしたりする力を伸ばし、より多くの生徒に身につけさせたいと考える。

普段の授業での少人数による話し合い活動を実践すると、「話すこと」に苦手意識をもっており、機会や役割を与えられないと発言できない生徒が各班に一人は存在することがわかる。そのような生徒は、自分の考えに自信がもてなかったり、そもそも「自分の考えをもとう」という意思が希薄だったりする。普段の授業から、自分の考えをもつこと、そしてそれを周囲に伝えていく必要性や聞き手への明確な伝え方を理解させる必要がある。本単元の学習が、その力を身につけるきっかけとしたい。

【グラフ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の一部抜粋】

問題番号	出題の趣旨	正答率 (%)	無解答率 (%)	内容※
1	一	87.7	0.1	A1ア
	二	65.3	0.2	(2)1ア
	三	76.8	0.2	A1エ
	四	82.7	10.6	A1エ

※ (1) …「言葉の特徴や使い方に関する事項」

(2) …「情報の扱い方に関する事項」

(3) …「我が国の言語文化に関する事項」

A …「話すこと・聞くこと」

算用数字は該当学年、カタカナは該当の指導事項を表す。

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効

果的に質問すること」の正答率が80%を切っていることがわかる。このことから、「話す」ことはもちろん、「聞く」ことにおいても改善の余地があると思われる。相手の話の内容を正確に理解すること、それを踏まえて自分の考えをまとめ、疑問に思ったことや感想をわかりやすく、適切な機会に適切な表現を用いて伝える力も求められている。本単元では、スピーチを聞いてまとめた自分の考えが、相手に伝わるように質問する活動を取り入れる。この活動を、調査結果で示されている課題克服の一助にしたい。

3 研究仮説

仮説1 国語科の学習が、他教科の学習内容との関連があると実感することで、横断的な教科の学習に取り組もうとしたり、日常生活や社会の中から主体的に問題を見つけて解決しようとしたりする意欲を高めることができるだろう。

《手立て》

- 国語科の既習内容が他教科で学習する内容と関連性がある、重複するところがある例を提示し、意識する。
- 新聞、テレビ、書籍、ラジオといったマスメディアやインターネットを含む媒体を通し、自分が選んだテーマに関する情報を収集する。

仮説2 少人数グループを形成し、資料やICT機器といったツールを用いて自分の考えを明確に伝える工夫をしたり、聞き手が話し手に的確な質問をする活動を行ったりすれば、「話す・聞く」の双方の力を伸ばすことができるだろう。

《手立て》

- スピーチの内容を考える際、次の観点を取り入れる。
 - ・自分のもっとも伝えたいこと
 - ・伝えたいことを聞き手に理解してもらうための論じ方や表現の工夫
 - ・自分の考えの基となる理由・根拠
 - ・相手の立場、異なる立場の視点
- 効果的に自分の考えを伝えるために、資料やICT機器などの活用などを提示し、選択する。
(例) タブレット端末、フリップボード、パワーポイント、大型テレビ、映像資料など
- タブレット端末を用いてスピーチを撮影し、それを友だちと互いに見てアドバイスをし合い、改良を重ねる。
- 発表会では、4人一組の班を一つのグループとして意見交換や話し合い活動を実施する。
- 発表会では、スピーチを聞いた後、聞き手は「話し手が最も伝えなかったことは何か」を考え、紙の付箋に記入する。話し手はその付箋を見て、自分の考えを相手に的確に伝えられたかを自己評価する。
- スピーチ発表後、聞き手が話し手に質問をする「質疑応答の時間」を取り入れる。ここで話し手は聞き手の質問から次の項目について聞き手を評価し、ワークシートに記入する。
 - ・スピーチの内容を正確に理解しているか。
 - ・話し手の考えを聞き、聞き手は新しい視点をもったり、自分の考えを深めたりしているか。

4 国語科 研究基本構想図

実態

- ・日頃から身の回りや社会の出来事に対して関心を持ち、自分の考えをもったり、他教科との関連性を考えながら横断的な学習をしたりする力が身についていない。
- ・課題や疑問に思ったことを、相手の立場を踏まえたうえでわかりやすく話したり、それに対し質問したりする、「双方向のコミュニケーション」ができていない生徒が多い。

主題

I C T機器を活用した主体的・対話的な学びあいによるコミュニケーション能力の育成

仮説

- 仮説 1 国語科の学習が、他教科の学習内容との関連があると実感することで、横断的な教科の学習に取り組もうとしたり、日常生活や社会の中から主体的に問題を見つけて解決しようとしたりする意欲を高めることができるだろう。
- 仮説 2 少人数グループを形成し、資料や I C T機器といったツールを用いて自分の考えを明確に伝える工夫をしたり、聞き手が話し手に的確な質問をする活動を行ったりすれば、「話す・聞く」の双方の力を伸ばすことができるだろう。

手立て

〈仮説 1〉

- 国語科の既習内容が他教科で学習する内容と関連性がある、重複するところがある例を提示し、意識する。
- 新聞、テレビ、書籍、ラジオといったマスメディアやインターネットを含む媒体を通し、自分が選んだテーマに関する情報を収集する。

〈仮説 2〉

- スピーチの内容を考える際、次の観点を取り入れる。
 - ・自分のもっとも伝えたいこと
 - ・伝えたいことを聞き手に理解してもらうための論じ方や表現の工夫
 - ・自分の考えの基となる理由・根拠
 - ・相手の立場、異なる立場の視点
- 効果的に自分の考えを伝えるために、資料や I C T機器などの活用などを提示し、選択する。
- タブレット端末を用いてスピーチを撮影し、それを友達と互いに見てアドバイスをし合い、改良を重ねる。
- 発表会では、4人一組の班を一つのグループとして意見交換や話し合い活動を実施する。
- 発表会では、スピーチを聞いた後、聞き手が話し手に質問をする「質疑応答の時間」を取り入れる。ここで話し手は聞き手がどのような質問をするのかを聞き、評価する。

目指す生徒像

- ・日頃から身の回りや社会の出来事に対して関心を持ち、それに対し自分の考えをもったり課題を認識して解決しようとしたりする生徒
- ・思ったことを、相手の立場を踏まえたうえでわかりやすく話したり、それに対し質問したりする、「双方向のコミュニケーション」ができる生徒

5 実践例

第2学年2組 国語科学習指導案

指導者 高橋 かおり

1 単元名 自分の考えを相手にわかりやすく伝え合う。

(主な教材：「観点を明確にして伝える」 教育出版)

2 単元目標

- ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)ウ
- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

「話す」「聞く」双方向のコミュニケーションを意識したスピーチ発表会を開く。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第2学年の以下の指導事項に位置づけられている。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
〔知識及び技能〕(1)ウ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ |
|--|

本単元では、上記単元の目標を踏まえつつ、以下の指導事項に基づいた活動を行うこととした。

①話題の設定、情報の収集、内容の検討 **A(1)ア**

他教科の学習内容から自分自身の興味のある話題を探すことで、教科等横断的な視点を取り入れる。

②構成の検討、考えの形成（話すこと） **A(1)イ**

客観的な事実や根拠を示し、自分の考えに説得力をもたせる。

③表現、共有（話すこと） **A(1)ウ**

ICT機器をツールとして用いることで、自分の考えをわかりやすく相手に伝える。

④構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと） **A(1)ウ**

話し手の考えを正確に捉え、それと比較しながら自分の考えをまとめる。

⑤話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと） **A(1)オ**

本単元では、⑤で掲げた「話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」の指導事項に重点を置き、「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。」を本単元の目標にしている。これは、令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果報告を受けて設定した。国立教育政策研究所が今年度の課題等として挙げているのは、「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問する」ことである。このことから、スピーチをしたり聞いたりして評価する一方向の活動でなく、スピーチを「聞く」→「内容を理解する」→「自分の考えをもつ」→「効果的に質問する」→「質問の内容や仕方を評価する」といった、「話す」「聞く」の双方向のコミュニケーション活動を実践することとした。

さらに、③で掲げた「表現、共有（話すこと）」においては、ICT機器を用いて自分のスピーチを動画に記録し、改良を重ねる活動や、ICT機器などのツールを用いてわかりやすく発表を行うという活動を実践した。これは、令和4年度の全国学力・学習状況調査において自分のスピーチを動画に記録して友達から助言をもらう場面が設定されている設問を参考にした。また、国立教育政策研究所が全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう示している授業のアイデアの一例においても、「動画を用いて話合いの中の自分の発言を振り返る」という活動が紹介されている。このように、タブレット端末が普及した現代において、手軽に自分の言動を振り返ることができるのは、客観的な視点で自分の考えを相手によりわかりやすく伝えるための自己分析や、他者の意見を聞いて自分の考えをまとめあげる力を促進できると言える。

(2) 生徒の実態

本学級は男子17名、女子15名、計32名からなる学級である。

先述したように、小学校時から生徒たちはどの教科においても積極的にタブレット端末を用いた学習を実践してきているため、ICT機器などの資料を用いた方が自分の考えを伝えやすい、わかりやすく伝えることができると認識している生徒が多い。

本校2学年の生徒に国語科の学習に関するアンケートを行ったところ、次頁グラフのような結果が出た。以下はアンケートの内容とその回答結果である。

ら構成される少人数グループを形成し、資料やICT機器といったツールを用いて自分の考えを明確に伝えやすくする。また、「質疑応答の時間」には紙の付箋を活用しながら意見交流をさせたり、ワークシートを通して自己評価、他己評価をさせたりする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、相手にわかりやすく自分の考えを理解させたり、説得させたりすることを前提として、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p style="text-align: right;">((1) ウ)</p>	<p>①「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。</p> <p style="text-align: right;">(A (1) オ)</p>	<p>①積極的に自分の考えをまとめて相手に伝わるように話したり、自分の聞きたいことを的確に質問したりしている。</p>

6 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	・スピーチのテーマを決める。	・教科等横断的な視点や身の回りや社会の問題、出来事に対し、関心をもたせる。 ・スピーチのモデルを示し、自分の考えを明確に伝え、説得力を増すための工夫について指導する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [思考・判断・表現①] ワークシート② ・自分の考えを明確に伝え、説得力を増すための工夫について考えている。 </div>
	2	・発表時のイメージをもたせる。		
第二次	3	・自分の設定したテーマに基づき、根拠となる材料を集め、スピーチ原稿を作成する。	・「起承転結」を意識して、自分の考えを論理的にまとめられるようにしたり、聞き手の興味を引く書き出しにしたりする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [知識・技能①] [思考・判断・表現①] スピーチ構成メモ ・「起承転結」を意識して、自分の考えを論理的にまとめている。 スピーチ原稿 ・自分の考えを明確に伝え、説得力を増すために、用いる言葉を吟味したり、推敲したり、話し方を工夫したりしている。 </div>
	4			
	5	・相手にわかりやすくスピーチの内容を伝えるために、ICT機器などを用いて資料を作成する。 ・タブレット端末を用いて、他者に自分のスピーチを動画に記録してもらい、改良を重ねる。	・原稿の推敲の跡は、学習の変容を見るために、消さずに線を引くなどして残しておくよう指導する。 ・スピーチ原稿の内容、話し方などを自己分析、他己分析してより自分の考えがわかりやすく、説得力を増すよう改良できるように助言する。	
	6			
第三次	本時	・4人一組の班をつくり、スピーチの発表会を行う。 ・スピーチ発表後に「質疑応答の時間」を設定し、自分の考えを伝え合う。 ・ワークシートを用いて相互評価するとともに、学習を振り返る。	・聞き手は、話し手のスピーチから「話し手が最も伝えたかったこと」は何かを正確に聞き取るように指導する。 ・「質疑応答の時間」では、それぞれの聞き手がどのような質問をしたのかを記録に残すため、質問内容を付箋に記入させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [主体的に学習に取り組む態度①] [思考・判断・表現①] ワークシート①～③ ・自分の考えが明確に伝わるようにスピーチをしている。 ・スピーチを聞いて自分の考えをもち、疑問に思ったことを的確に質問している。 ・本学習を振り返って学んだことを自分の言葉でまとめている。 </div>
	7			

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。

[思考・判断・表現]

- ・積極的に自分の考えをまとめて相手に伝わるように話したり、自分の聞きたいことを的確に質問したりしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 本時の学習と学習目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 「話す」「聞く」双方向のコミュニケーションを意識したスピーチ発表会を開こう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時、本単元で身につける力について考える。 【見いだす】</p> </div>		
5	<p>2 スピーチ発表会で用いる付箋、ワークシートを配付し、本時の流れについて理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>発表会の流れ</p> <p>① 4人一班をつくり、一人ずつスピーチの発表を行う。 各2分以内</p> <p>② 発表後、聞き手は以下の2つについて、各色の付箋に記入する。 1分</p> <p>○話し手が最も伝えなかったこと → ピンク色の付箋</p> <p>○話し手に聞きたいこと → 黄色の付箋</p> <p>③ 「質疑応答の時間」をとる。 1分半</p> <p>④ 話し手は聞き手の質問に対し、文章で評価をする。 2分</p> <p>⑤ 役割を変え、①～④を繰り返す。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ発表会の流れを板書し、わかりやすくする。 ・話し手のスピーチを聞き手が評価するだけでなく、「質疑応答の時間」における聞き手の質問の内容や仕方も話し手から評価されることを改めて指導する。 	

25	<p>3 机を班隊形にして、スピーチ発表会を行う。</p> <p>他者のスピーチを聞いて自分の考えをもち、的確に質問する。 【自分で取り組む】</p> <p>質疑応答を通して、話し手と聞き手の双方によるコミュニケーションを促す。 【広げ深める】</p>	<p>○観察 [思考・判断・表現] ≪「努力を要する」と判断した生徒への手立て≫ ・「質疑応答の時間」において簡潔すぎる質問で終わってしまう生徒には、まず自分の感想について発言させ、「なぜそう感じたのか」という理由も合わせて伝えられるように指導する。</p> <p>○観察 [主体的に学習に取り組む態度] ≪「努力を要する」と判断した生徒への手立て≫ ・「質疑応答の時間」において質問ができない聞き手の生徒には、スピーチテーマと自分の身近な出来事を照らし合わせて考えてみるよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿 ・ICT機器などのツールを用いて作成した資料 ・ワークシート①②
15	<p>机を前に向け、本時を振り返る。</p> <p>自己評価、他己評価をし、個で振り返りをする。 【まとめあげる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず机を班隊形から前に向けさせ、落ち着いた雰囲気の中で、個の振り返りをさせる。 <p>○観察 [思考・判断・表現] ≪「努力を要する」と判断した生徒への手立て≫ ・この単元の学習を通して学んだこと、新しく知ったこと、学習する前とした後で考えが変化したことについて記入するよう、指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③

8 板書計画

観点を明確にして伝える
<p>学習課題</p> <p>「話す」「聞く」双方向のコミュニケーションを意識したスピーチ発表会を開こう。</p>
<p>発表会の流れ</p> <p>①スピーチの発表を行う。 各2分以内</p>
<p>②発表後、聞き手は二色の付箋を記入する。 1分</p> <p>○話し手が最も伝えたかったこと ↓ピンク色の付箋</p> <p>○話し手に聞きたいこと ↓黄色の付箋</p>
<p>③「質疑応答の時間」をとる。 1分半</p>
<p>④話し手は聞き手の質問に対し、文章で評価をする。 2分</p> <p>ピンク色の付箋はワークシート①に、黄色の付箋はワークシート②に貼る。</p>
<p>⑤役割を変え、①～④を繰り返す。</p>
<p>まとめ</p> <p>この単元の学習を通してわかったことを、自分の言葉でまとめよう。</p>

9 生徒の変容

(1) テーマ設定・情報収集

スピーチのテーマを設定する際、たとえば「バスケットボールについて」「宇宙におけるビッグバンについて」といった、調べた知識を紹介するだけにとどまってしまうテーマを設定する生徒が一部存在した。そのような生徒には、教師が「そのテーマについて、オリジナルの意見や考えはどれくらい伝えられるか。」という問いかけをした。調べた知識を伝達して終わってしまう一方向のスピーチより、メリットとデメリットの両面を併せもち、複雑で多様な考えが取り巻くテーマの方が自分の考えを伝えやすいという助言をしたところ、「情報を伝えるのではなく、独自の考えを相手に伝えるスピーチにする」という生徒の意識が高まった様子だった。

また、テーマ設定のワークシート（資料編を参照）における「あなたは、どのような情報を、どうやって集めますか。」という設問に対する回答の内容には、個人差があった。圧倒的に「インターネット」を挙げる生徒が多かったが、この一つ的手段だけで情報を収集しようとする生徒も少なからず存在した。インターネットは、生徒にとってたくさんの情報を手軽に手にできる便利なものであるが、学習指導要領で「情報の扱い方に関する事項」に記載されているとおり、情報が飽和状態にある昨今において、情報の収集の仕方は事前に指導すべき重要な事項である。情報収集する前に、以下の項目について理解させ、得た情報のソース（URLや文献名、著者の名前や身分など）を必ず記録するよう指導した。

- ・自分の得たい情報は何か
- ・それに見合う情報かどうか
- ・根拠が示された、信憑性の高い情報か（情報源はどこか、どういった身分をもつ人物の主張か）
- ・その情報に対する批判的な見解はないか、また、そう考える根拠は何か など

「インターネット」のほかには、「本」「新聞」という回答もあった。他者の意見を引用する際には必ず文献名などを添えること、そして「その意見を踏まえて自分はどう考えたか」を中心に伝えるよう指導した。また、「専門的な知識をもっていそうな人にインタビューする」など、生きた情報を得る手段を自分なりに考えた回答もあった。授業後も生徒自身が追究し続けられるよう、支援していきたい。

(2) 研究実践の生徒Sの様子

生徒Sは、理科で学習した化学反応式に関連して、日常生活に潜む「危険な化学との付き合い方」についてスピーチをした。以下、生徒Sのスピーチ原稿である。

化学物質名分かりやすく
前押し!
ゆくり 声の強弱

★写真!
静かな感じで
起皆さんは酸性や塩素系の洗剤を買ったときにこのような「混ぜるな!危険」の表示を見た
ことがありますか?また、それをみて、どう思いますか?危ないと思うか面白いと思うか
ちなみに私は危険なのはわかっていますが心のどこかで興味がありました。ですが、本当に危
険です。ほかに身近なものを混ぜ合わせると身の回りには危険なことがたくさん潜んで
います。

★写真! 発音当時の
承2012年ある電車内で爆発事故が起こり、計16人がけがをしました。これは当時の報道
時のニュースです。原因はある人がコーヒーを飲んだ後のアルミ缶に強アルカリ性の業務
用洗剤を入れてしまったことです。アルミニウムと洗剤に含まれている水酸化ナトリウム
を混ぜると、水素ガスが発生します。水素ガスは体積が大きいためアルミ缶が圧力に耐えき
れなくなり爆発したようです。ほかに、ワイングラスなどに使われるクリスタルガラスに
は人間に有毒な鉛が含まれています。鉛は水やアルコールには溶けにくい一方で、ジュース
などの酸性の物を入れると鉛が溶け出してしまう可能性があります。ワイングラスにジュ
ースを入れると鉛が溶け出して気づかずジュースと一緒に飲んでしまうということも起
りうる話です。

では
転なぜ化学変化による事故で人の命が奪われたり、危険にさらされたりしてしまうのでし
ょうか? 静かに問う、ゆくり、間をかける

私は危険だということを知らないからではないかと考えました。直接、友達に広めるのも良
いですが、それでは限界があります。しかし、情報を広めたいからといって、メディアで扱
ったり、商品の注意書きに書いてもらったりするとたくさんの人が知れる一方、悪用される
かもしれません。実際、ネットで発生方法が流れたことで硫化水素での自殺者が1000人を
超えた年があったそうです。このとき、硫化水素による自殺は社会問題になり、発生するた
めに必要な化学物質の1つは入手困難になりました。

ちなみに、私の知り合いに興味本位で酸性と塩素系洗剤を混ぜて硫化水素を発生させてしまった人が
います。その人によると混ぜて少しすると異様なにおいがし、本能で命が危ないと感じたそ
うです。

結このように、興味本位で試したり、悪用したりする可能性もあるため、私の考えになりま
すが、私は自分と周りの命を守るために危険な化学変化について知るべきだと思います。広
める方法は、TVでの放送や本、私たちが知って周りに知らせていく、講習会を開くなどた
くさんあります。いずれにせよ、絶対に命に関わるということを忘れないでほしいし、絶対
に面白半分で悪用しないでほしいです。

今回調べた
おもしろいことを
かまえて

ゆ
強め

スピーチを2分以内に収めるため、削除した部分は傍線で消されている。自分の考えを中心に伝えるため、調べてわかった知識や事実を最低限にした様子がわかる。また、話し方の工夫点については緑、資料の提示のタイミングは赤、といったように色ペンを使ってオリジナルのスピーチ原稿に仕上げている。

生徒Sは最初、「化学反応による事故の危険性」について中心に原稿を作成していたが、途中から本当に伝えたいことは別にあるのでは、と内省し始めた。そして、「混ぜるな危険」に関する情報を知らしめた結果、自殺者数が増えて社会問題になってしまったという事実を踏まえ、自分が最も伝えたいのは「命の大切さ」であるという結論に至った。このことをスピーチの後半で伝えようとはしたものの、的確にその考えを伝えきれず、「人々は化学変化の恐ろしさについてもっとよく知るべきだ」というテーマに捉えられてしまった。以下は、生徒Sのワークシート①である。

○聞き手の書いたピンク付箋を読み、自分の一番伝えたかったことが伝えられたか。

身の周りにある危険について深く調べ、安全だと思っても危険なものがあり、周りに気をくばらなくてはならない。

ここに、班員が書いてくれた

まわりの人たちに化学変化のことについてもっとよく知ってもらいたい。

生徒Sのスピーチを聞き、「Sが最も伝えたかったことは何か」をほかの班員が付箋に書いた。班員からは「命を大切にする」ではなく、「化学変化の危険性について知るべきだ」というテーマとして捉えられていることがわかる記述。

混ぜるな危険が大切な理由や硫化水素の危険性が分かりました

→これを読み、自己評価をしよう。

ほとんど私の主張と同じようなことを書いていて、なんとなく、伝えたかったことは伝えられたが、もっと具体的に伝えるために自分の主張を最後だけでなく、何回もくり返したり、人に伝えられるように、きりとスピーチが必要があると考えました。

自分の考えが十分に伝えきれないことについての記述。

「化学変化の危険性」を周知させることが大事なのではなく、その危険性を悪用して命を粗末にすることがあってはならないという、生命の尊さを訴えるスピーチに仕上げたかった様子。

以下は、生徒Sのワークシート②である。生徒Sが聞き手の質問力を文章で評価している。

○聞き手の書いた黄色付箋を読み、聞き手の「質問力」を文章で評価しよう。

<p>じこを失って、 どう思いましたか。</p>	<p>確かに、私のスピーチは最後に自分の 意見を言っていました。途中の事例に 対し意見は言っていなかったなと思いま した。ただ事例を紹介するだけでなく、何 か一言いうと、聞き手にとって伝えたい恐ろ しさなどの感情が分かると思いました。</p>
------------------------------	---

本来は聞き手を評価すべきところだが、質問から聞き手がスピーチの内容をどの程度理解できているかが記されていない。しかし、聞き手の質問を受けて「自分のスピーチに足りなかったところ」を考えている。

聞き手の立場を踏まえつつ、相手に自分の考えをわかりやすく伝えたり説得力をもたせたりする工夫を、聞き手の質問から学んでいることがわかる。

これは、「少人数グループを形成し、資料やICT機器といったツールを用いて自分の考えを明確に伝える工夫をしたり、聞き手が話し手に的確な質問をする活動をしたりすれば、『話す・聞く』の双方の力を伸ばすことができるだろう。」
(仮説2)につながる記述。

相手の質問から自分のスピーチの改善点を発見することは、「話す」「聞く」の双方向の活動があったから気づくことができたこのでもあるだろう。

(3) 実践後の生徒Sの様子

ワークシート③において、この単元の学習について振り返りをしている。

この「スピーチ」の学習を通し、あなたが身についたと思う力はなんですか。くわしく書いてください。また、この学習でわかったこと、感想もあわせて書いてください。

私は原稿をかく時に、自分が調べた中でどれが相手に伝わりやすいか、どのように伝えたらいいかと相手が分かりやすいような事例や言葉選びをしたので、新しく知った言葉があります。また、

[知識・技能]

- ①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、相手にわかりやすく自分の考えを理解させたり、説得させたりすることを前提として、語感を磨き語彙を豊かにすること。((1)ウ)に関する自己評価。

夢中になるような言葉選びをしたいです。そして、担任の人の自分が普段あまり調べないようなものをテーマにしたスピーチを聞いて自分の視野が広がったような気がします。

「横断的な教科の学習に取り組もうとしたり、日常生活や社会の中から主体的に問題を見つけ、解決しようとする意欲を高めることができるだろう。」(仮説1)につながる記述。

自分が選ばなかった題材を、他者から工夫を凝らして示されることで興味がわき、協働的なクロスカリキュラムの学びの一助とすることができた。

(4) そのほかの生徒の学習の振り返り

以下は、生徒Hのワークシート③の内容である。

この「スピーチ」の学習を通し、あなたが身についたと思う力はなんですか。
くわしく書いてください。また、この学習でわかったこと、感想もあわせて書いてください。

私が身についたと思う力は、スピーチ力、
もちろんですが、想像力にあると思います。
理由は、「この話し方だったら相手は、こう反
応するだろう」「これだったらいいリアクションがも
たない」と色々パターンに応じてそれぞれの
見方を変え、俯瞰すると予想が付きやすくて。
それが私の中で一番感じとったことです。

[思考力、判断力、表現力等]

- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。A(1)オ
- ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。A(1)ア

に関する自己評価の記述。

相手の反応を踏まえて表現を工夫することや、時には相手の反応を予想して多様な論の展開を準備しておく心構えをもっている。

以下は、生徒Mのワークシート③の内容である。

この「スピーチ」の学習を通し、あなたが身についたと思う力はなんですか。くわしく書いてください。また、この学習でわかったこと、感想もあわせて書いてください。

今回のスピーチで、私は人の意見をよく理解することが大切だと思いました。自分の意見を言うだけでなく、相手が思っている意見をよく聞いてそれに質問したり、質問に答えたりして話すことがこれからも必要になっていくんじゃないかと思いました。

そして、みんなのまとめ方がうまく、たです。画像を見せて想像しやすくさせているほかにもそのことについて自分で画像を作ったり、どんなっているのかを自分の意見も含めて相手に説明していたのでとてもわかりやすかったです。

[思考力、判断力、表現力等]

- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。A (1) オ
 - ・資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。A (1) ウ
- に関する自己評価の記述。

ICT機器などのツールの活用に大きな意義を感じていることがわかる。

また、本単元の学習のこういったところから、「双方向のコミュニケーションが必要になる」と感じたのが記されていないが、「話す」「聞く」のどちらか一方だけではコミュニケーションが成り立たず、双方向の関係性がある初めて、考えがまとまったり結論を導き出せたりするものだとの認識が生まれている。

資料編

※資料編の中身については、別添の PDF ファイル（2024 井野中 国語科「話す・聞く」資料）をご用意ください。